



創立 50 周年記念特大号

ばらの丘通信

No.31 2025 年 2 月

社会福祉法人つちや社会福祉会

50周年の感謝と創業の理念

社会福祉法人つちや社会福祉会

理事長 水島 圭一



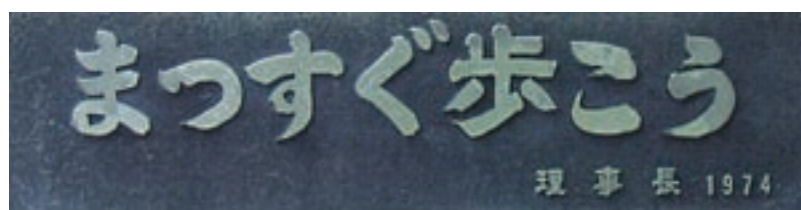
社会福祉法人つちや社会福祉会は、本年度で創立50周年を迎えることができました。ご利用者、ご家族、地域、行政、ボランティア、お取引先企業等の皆様、その他多くの方々のお支えをいただきながら、ここまで経営を続けてくることができましたことに深く心より御礼申し上げます。

当法人は昭和49年2月に開設認可を受け、同年4月に軽費老人ホームつちやホームへ第1号のお客様をお迎えし、事業をスタートさせることができました。その際、初代理事長は私の祖父である水島豊でございましたが、創立時に掲げた理念を50年後の今も引き継いで経営を続けております。

この度の創立記念に際し、当法人の経営理念について少しご紹介させていただきます。

『まっすぐ歩こう』とはシンプルな言葉ですが、実現は難しいものです。人は人生のあらゆる場面でしばしば転機を迎えます。病気や事故、経済面、人間関係、加齢によるものなど、様々な要因によって、それまで順調だった人生が一変してしまうことがあります。そして、それらは往々にして家族の生活にも少なからず影響を与えます。だから人生においてまっすぐ歩き続けることは実は難しいのです。

私たちつちや社会福祉会の使命は、地域で暮らす多くのご高齢者やそのご家族が、加齢や病気などがもとでお世話が必要な状態になったとしても、私たちのサービスをご利用いただくことによってご本人が安定し、ご家族も生活や仕事を変えることなく、それぞれの人生をまっすぐ歩き続けていただけるようにお支えることです。



社会福祉法人つちや社会福祉会 経営理念

それが実現できる地域社会創造の一助となることが、社会福祉法人つちや社会福祉会のお客様と職員と地域住民の皆様にとっての『まっすぐ歩こう』です。

以上が経営理念に込められた念いでございます。社会福祉法人つちや社会福祉会は、経営理念『まっすぐ歩こう』のもとに、今後も多くの皆様の生活の安定をお支えし続けることが出来るよう引き続き精進してまいります。甚だ若輩者でございますが、今後とも変わらぬご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願い致します。



**平塚市長 落合克宏**

社会福祉法人つちや社会福祉会の創立50周年、誠におめでとうございます。

半世紀という長きにわたり、地域福祉の拠点として、高齢者の方々の生活を支えるとともに、身近な相談役として地域を支援してられました。理事長をはじめ従業員の皆様の献身的な御努力に深く敬意を表しますとともに、地域福祉の充実に御尽力いただき、心から感謝申し上げます。

平塚市では、地域で互いに絆を結びながら、誰もが尊重し合い、支え合う「地域共生社会」の実現に向けた取組を進めています。皆様には、高齢者の方々が地域社会で安心して豊かに暮らしていけるよう、引き続きお力添えを賜りますようお願いいたします。

結びに、貴会のますますの御発展と、皆様の御健勝を祈念いたしまして、お祝いのことばといたします。

**社会福祉法人神奈川県社会福祉協議会 会長 篠原正治**

社会福祉法人つちや社会福祉会が設立50周年を迎えられましたこと、心よりお慶び申し上げます。1974年の法人設立から半世紀、「まっすぐ歩こう」の法人理念のもと、湘南・平塚の地で多くの社会福祉法人の先頭を歩いてこられました。

近年、社会のあり様は大きく変化し、地域の中で暮らしていても孤立している方、人と人とのつながりがなかなか感じられない方もいます。そんな中「地域共生社会」を目指して社会福祉法人が果たす役割はますます大きくなります。

これからの未来は、誰も経験したことのない社会となっていきます。そんな時代に、半世紀の間、まっすぐ歩いてきた貴法人の歴史は必ずや力となります。今後も利用者、地域、職員、関係者のみなさまの益々の発展をご祈念し、お祝いの言葉といたします。

**社会福祉法人平塚市社会福祉協議会 会長 木川康雄**

社会福祉法人つちや社会福祉会の創立50周年を心からお祝い申し上げます。

貴会は、半世紀もの間、水島理事長をはじめ歴代理事長、役員等、並びに職員のみなさまが、ご高齢者の皆様への支援や地域福祉を推進し、地域に根差して、地域で暮らすすべての人がつながりあい、お互いに支え合う地域づくりに貢献していただき、深く敬意を表します。

現在、少子高齢化だけでなく、介護分野の人材確保や介護と医療の連携、地域福祉の課題は複合的になってきました。本会も、「みんなでみまもる ゆるやかなつながり」を合言葉に、「ともに生きる豊かな地域社会」を推進してまいりますので、変わらぬお力添えをお願い申し上げます。

結びに、創立50周年を契機に、貴会がますます御発展されますことを祈念し、お祝いのことばとさせていただきます。

**神奈川県議会議員 森 正明**

社会福祉法人つちや社会福祉会の創立50周年を心よりお祝い申し上げます。

法人設立から50年もの間、神奈川県ならびに平塚市の地域福祉の拠点として、高齢者の方々の暮らしを支えてこられたご功績に対し、心より敬意を表します。

私自身、サッカー選手・指導者から政治家に転身して25年以上経ちますが、当時から変わらぬお付き合いを続けていただき、社会貢献・地域活動・地域コミュニティづくりなど、地域と福祉の関わり方を勉強させていただきました。目配り、気配り、心配りが欠かせない事業だと思います。

事業スタート時に、来たる高齢化社会を支える施設運営とサービス提供を展開されてきた先見の明を持ちながら、時代の変化で生まれてくるこれからの社会のニーズに変わらず応えていってほしいと願っております。

**一般社団法人神奈川県高齢者福祉施設協議会 会長 加藤 馨**

社会福祉法人つちや社会福祉会が創立50周年を迎えられましたことをお慶び申し上げます。老人福祉法に基づく軽費老人ホームを昭和49年に設立されて以来、半世紀にわたり地域の高齢者福祉の推進に取り組み社会的貢献を果たしてこられましたことに対して心より敬意を表します。

また、創設期より神奈川県老人ホーム協会（現神奈川県高齢者福祉施設協議会）の会員施設になっていただき、地域の高齢者福祉施設のサービス向上を牽引する役割を初代理事長はじめ歴代施設長に担っていただいていることに対して感謝申し上げます。

高齢者とともに歩んでこられた社会福祉法人つちや社会福祉会の福祉事業がこの50周年を機にさらに充実され、発展されることを祈念してお祝いの言葉とさせていただきます。

**土沢地区社会福祉協議会 会長 秋山 貢**

「社会福祉法人つちや社会福祉会」の創立50周年を迎えられましたこと、心からお祝い申し上げます。

設立時に今日の少子高齢化社会の進展に加え、人口減少社会の到来を見通され、まさに先駆的な考えのもと福祉会を設立されたことに対し感銘する次第です。その予見のごとく、現代は超高齢化社会となり高齢化率は毎年上昇の一途と予想され、地域で安心して暮らしていける町づくりを目指した地域福祉の構築が不可欠であります。貴福祉会は高い信頼もあられ、地域福祉をめぐる様々な取り組みを実践され、福祉施設として重要な存在であります。どうぞ今後とも、更に変化する社会構造に柔軟に対応され発展されますことをご祈念申しあげ、お祝いの言葉といたします。

**金目地区社会福祉協議会 前会長 森口明男**

社会福祉法人つちや社会福祉会の創立50周年を心よりお祝い申し上げます。

創立以来、地元の私達金目社協とも親しく交流をもち、地域に開かれた平塚での先駆けの福祉施設として誠実な経営と利用者の安心安全幸福の希求と地域のニーズに真摯に耳を傾け、明るくオープンな笑顔あふれるローズヒル並びにつちやホームとの印象です。

法令の改定や物価高、ますますの超高齢化等諸問題を経験と実績とすばらしいスタッフでクリアーしつつ、ゆっくり前進して行って下さい。

終わりに、傘下の地域包括支援センターひらつかにしには大変お世話になっています。心より御礼を申し上げ、益々のご発展を切望いたします。

**社会福祉法人つちや社会福祉会 理事 吉川雅己**

創立50周年を迎えられたことを、心よりお祝い申し上げます。つちや社会福祉会は、水島豊・春子夫妻の「地域に役立つものを残したい」という強い志として、地域貢献されたものと認識しています。創業当時は福祉政策が混沌としていましたが、水島夫妻は強い信念によりいち早く福祉事業設立を決断された。巨額の私財を投じられたうえ、家族や親せきなど水島家が強い絆のもと、一丸となって取り組まれている姿が、私たちの世代には鮮明によみがえります。施設は屋敷続きの一番の景勝地とし、地域の象徴として聳え立っています。つちや社会福祉会は創業より水島家でしっかり継承され、地域社会に貢献されている存在そのものは、住民にとって最高の喜びであります。50周年の記念事業を通じて、つちや社会福祉会の絆が更に強く結ばれ、発展されますことを祈念し、お祝いの言葉とさせていただきます。

**社会福祉法人つちや社会福祉会 理事 野川達司**

つちや社会福祉会創立50周年おめでとうございます。平成4年、父がローズヒルにお世話になり、しばらくして当時の理事長・水島貞さんから「家族会を作らないか」とのお話がありました。入所者、施設、家族が連携し一体となっていく必要性が熱く語られ、家族会が結成され、機関紙「絆」も発行されました。

その後、様々な課題を乗り越え事業も拡大され、スタッフも充実し、豊かで多彩な企画も充実、安心して利用し過ごせる居場所・拠点としてなくてはならない存在に発展されていることに敬意を表します。各種団体や個人のボランティアでの参加も利用者の目線、奉仕提供する理念が貫かれていることに集約されているかと思います。

高齢化と社会構造の変化は、老後を安心して任せられる居場所として、つちや社会福祉会は一層重要な役割を担うことになります。

今後ますます福祉の拠点として発展されることをお祈りいたします。

**社会福祉法人つちや社会福祉会 顧問
レーベン株式会社 代表取締役 吉野龍彦**

社会福祉法人つちや社会福祉会の創立50周年、心よりお慶び申し上げます。

創立50周年を無事に迎えられるのも、ご利用者様、ご家族の皆様、地域の方々、行政、ボランティアの皆様、職員の皆様のご理解、ご支援、お力添えがあったからこそだと存じます。直近10年の間では、2017年(平成29年)10月に特別養護老人ホーム「ローズヒル東八幡」を新規開設し、多くのご利用者様を迎え入れさせて頂きました。

また、ベトナム人技能実習生の採用を行ない、人員の確保及びご利用者様の介護サービスの向上を図りました。今後も職員の方々が働きやすい環境をより一層整えていくことが必要であると考えております。

私は、水島米子会長、水島圭一理事長、職員の方々の日々のご努力と熱意にはいつも感服しております。私も顧問として全力でお手伝いさせて頂きます。これからも職員の方々が力を合わせ、ご利用者様に安全で実りのある豊かな生活が送れますように、ご家族の方々に安心して頂ける、つちや社会福祉会になって頂きたいと思います。

**社会福祉法人つちや社会福祉会 会長 水島米子**

気が付けば50年の歳月が経ちました。実に多くの皆様にご指導、ご協力、ご支援をいただいたことは、感謝に堪えません。

開設時、平均年齢74歳のお元気なご利用者と、10名の新卒から50歳代の職員との日々は、明るく活気に満ちていたように思われます。当時のつちやホームは、理事長の想いをしっかりと受け止め皆が対等であって、大きな屋根の下、個々の力を出し合い協力して生活を送っていました。多彩な趣味活動に力を入れ、その発表の機会として文化祭は生まれました。ご家族やご協力いただいている多くの方と共に楽しい時間を過ごすことは、胸の晴れる思いがして生きがいとなりました。あるご利用者の「この近くにコーヒーが飲めるところがないね」との呟きから喫茶「星空」が生まれました。

生活の中に文化をという伝統は、永々と50年続き今日に至ります。次の50年のスタートラインに立って、変わりつつある社会の中に益々必要とされる役割をしっかりと担っていきたいと思います。

誰もが迎える人生の終焉を、穏やかにありがとうと言えるように。

1974

2月

社会福祉法人つちや社会福祉会開設認可
初代理事長 水島豊

4月

軽費老人ホームつちやホーム事業開始

1984

2月

創立10周年

- 1985年 つくば科学万博開催

1987

8月

水島貞 2代目理事長就任

- 1988年 青森函館トンネル開通

1992

2月

特別養護老人ホームローズヒル事業開始

4月

デイサービスローズヒルケアセンター事業開始
在宅介護支援センター事業開始

- 1993年 皇太子結婚の儀

1994

2月

創立20周年

- 1995年 阪神淡路大震災
- 1998年 長野冬季オリンピック開催

1999

1月

「ばらの丘通信」第1号発行

9月

居宅介護支援事業所として指定

11月

短期入所生活介護・通所介護・訪問入浴介護事業所として指定

2000

2月

介護老人福祉施設として指定

2001

12月

天皇陛下より法人に対し御下賜金が下賜される

- 2001年 皇太子夫妻の長女愛子親王が誕生



つちやホーム



初代理事長 水島豊



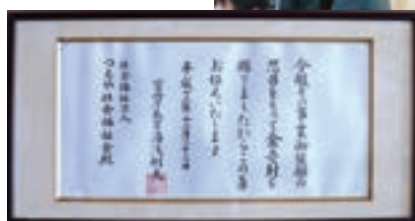
創立10周年記念式典



2代目理事長 水島貞



ローズヒル





創立30周年記念式典



2002

5月

水島貞 神奈川県県民功労者として表彰

2004

2月

創立30周年

11月

水島貞 厚生労働大臣表彰

2006

4月

地域包括支援センターひらつかにし事業開始

2011

6月

水島貞 瑞宝双光章受賞

7月

水島米子 3代目理事長就任

● 2011年 東日本大震災

● 2012年 東京スカイツリー開業

2014

2月

創立40周年



創立40周年記念式典



3代目理事長 水島米子

2015

9月

高齢者よろず相談センターひらつかにし金目窓口事業開始

2017

10月

特別養護老人ホームローズヒル東八幡事業開始

● 2020年 新型コロナウイルス発生

● 2021年 東京オリンピック開催



高齢者よろず相談センターひらつかにし

2021

9月

ローズヒル東八幡ショートステイ事業開始

2022

6月

水島圭一 4代目理事長就任



ローズヒル東八幡



4代目理事長 水島圭一

2024

2月

創立50周年

座談会 今日まで そして 明日から



これまで仕事をしてきて、 印象に残っていることや思い出は何ですか？

米山

2代目貞理事長のエピソードはたくさんありますね。朝は誰よりも早く来ていらっしゃいました。「おはようございます」「お先に失礼します」の挨拶は鉄則でした。いろんなことに厳しかったというか、音を立てたり、喋り方や話し声、廊下でうるさくしてしまうと怒られることがありました。でも、誰にでも公平な方でした。

増田

今思えばすべてが昭和式で今の時代には合っていないと思いますが、とても大事なことをたくさん学びました。私もその経験があったからこそ今があると思っています。

米山

見た目は厳しい感じの方でしたが、結構お茶目な面もありました。そしてとても慕われていらっしゃいました。「挨拶、笑顔、愛想」は口癖のように言われてました。帝国ホテルの十か条を窓口や事務所に掲げていましたね。懐かしいです。

重田

食事本当にこだわっていて、それが今も受け継がれているのかな。デイサービスでも、出来合いのものとかお弁当形式のものを外部から出してる施設が増えてきている中で、うちは施設に厨房を完備してそこで作る。配膳や器など美しいものを見て心を養うために、そういうイベントにもよく連れてってもらえました。

小永井

私は別職種からの転職でしたので、ローズヒルに来て改めて自分が「日本人らしいことをやるようになったな」と感じました。子供の頃以来ずっとやってなかったような「餅つき」「夏祭り」「誕生日会」なども行われました。理事長たちが餅つきをされるので初めて見たときはびっくりしました。こうして楽しい思い出として残るからとてもいいですね。



青木

日帰りバス旅行で箱根に行きました。普段少食な利用者さんがバイキングでたくさん召し上がっていて、びっくりしました。また、利用者さんとの会話で生きている忠犬ハチ公を渋谷で見たことがあるというエピソードも印象深かったです。

米山

猫がいたことも印象に残っています。職員だけでなくご利用者、ご家族、他事業所の方々等に愛されていました。

理念「まっすぐ歩こう」について思うこと

米山

「まっすぐ歩こう」って理念はとてもいいですね。すごくシンプルで。シンプルだからこそ心に響くっていうか。その言葉を聞いて思うことって人それぞれ違うと思うんですけど私はそれを入職時に聞いて、感銘を受けたんですよ。

増田

自分に嘘をつかないで「まっすぐ」っていう部分と、仕事に対して決まったことを「まっすぐ」やる。仕事以外でも後ろ指を指されないよう心掛ける。この理念「まっすぐ歩こう」は大きく響くものがあります。少し前にこの理念を変えようみたいなお話があったとき、ちょっと心痛かったんですよ。これはこのままにしてほしい気持ちがありました。憲法改正じゃないですけどね。だけど現理事長も、最近「まっすぐ歩こう」は変えようがないねって仰ってました(笑)。みんなで新しい理念の案を持ち寄ってみたら「まっすぐ歩こう」の大切さに気づいたということはありませんね。

重田

「まっすぐ歩こう」がやっぱりいいんじゃないですかね。「まっすぐ歩こう」は1人1人のことですよ。

小永井

「まっすぐ歩こう」は、コンプライアンス的なことなのかなって思っていました。「法令遵守」という意味だと思い続けてたんですけど、コロナが発生してサービスが本当に立ち行かないじゃないかっていう、ギリギリのところまで来たことがあった時に、地域の普段デイサービス使ってる方が使えなくなってしまう、仕事も休まなきゃいけない、別のサービスに繋げなきゃいけないという動きがすごかった。あの時「まっすぐ歩こう」が職員だけでなく、地域の方とか家族とか、利用者様の中にもあったと思います。つまりいたり、曲がった方向に行ったり立ち止まったりしないように、まっすぐ歩けるようにサポートしてあげるという部分もあるんじゃないかなと感じました。

米山

自分も最近この理念について思うところがあって、確かに生活サポートに繋がってるから自分たちだけじゃなくて、やっぱりこの近隣地域の方々に対しても、そういう姿勢が必要なんだと。法令と、職員、地域の方、利用者様にとっても「まっすぐ歩こう」という部分があったと思います。

石井

初代理事長の奥様、水島春子さんは民生委員をやってたそうなんです。この地域のいろんな困りごとを聞いてる中でそういう経験も通して、本当は多分高齢者介護とかに限定してない思いだと思うんですよ。

米山

50年の伝統と、その伝統を守ってこの風土の下で培ってきたものが「まっすぐ歩こう」に凝縮されていると思います。

石井

50年続くのは難しいことだと思います。普通の企業でも10年継続するのも難しいし20年で倒産してしまうところもたくさんある中で「まっすぐ歩こう」で50年と続く。すごいことだと思います。

青木

就職活動をしている時に、ホームページの「まっすぐ歩こう」の石板を見てこういう場所には悪い人はいないと思って応募しました。

重田

オーバーワークになって自分が潰れてしまうこともあるので、みんなに協力していただきながら相談しながら一歩ずつやってます。みんな「まっすぐ歩こう」の心ですね。

今、自分がやっている仕事、職種、部署について 感じていること、大切にしていること

米山

社会福祉法人の会計は一般企業とは全く別の仕組みなんです。施設も増えて業務も複雑化しています。事務部門では業務を効率化するように模索しながら取り組んでいるので、皆さんにご協力いただいたりする部分も多いと思うので、よろしくお願いします。

石井

事務も現場もいろんなルールで細分化されて、委員会や勉強会も増えました。私も25年経つんですけど、介護保険が始まったばかりの頃は融通利くことも多かったけれど、だんだんルールが厳しくなって、でもそれによってサービスの質が良くなったり、不正や無駄が減ったりなど良いこともたくさんあると思います。

重田

「まっすぐ歩こう」にも繋がるんですけども、やっぱり自分の仕事に誇りを持って素直の心を忘れずに。自分1人でやる仕事ではないので、周りの方に協力していただきたいが、できる範囲でやろうっていうのはすごい思ってます。

米山

例えば経理の仕事は本当に孤独なんです。全部自分で調べて、わからなければ行政に確認することがたくさんあります。指導監査、現場監査、法人監査もあるので細かく経理を見られるんです。社会福祉法人は介護保険の財源、補助金を使った事業なので公的なものなので仕方ないことなんですけど、常に緊張感を持って仕事をしています。

増田

20年前だと、硫黄島の生き残りの利用者様がいて、フラッシュバックで夜暴れるということもありました。いろんな面で利用者様も変わったし、そのやらなきゃいけないことも時代に流れて変わってきてるし、という部分で仕事のやらなきゃいけないことは同じようだけど仕事の質自体が変わったと感じます。仕事はやっぱりチームワークが大事なかなと思ってやってます。とにかく職員の年齢層が上がってるというのが確か。それはもう日本の社会全体の話ですね。

小永井

デイサービスって在宅サービスなので、本当に人によっては週1回しか来ないから、週に1日の昼間だけしか我々職員はそのご利用者のことはわからなくて、残りの6日間ぐらいのことは全然わからない。ここに来て、歩行状態、食べる状態をその場で見ながら対応を修正していくことが求められる。その場その場で考えてやりましょうって言ってくれる職員が多いので本当に助けられます。昔はなかったようなレクリエーションも考えてくれたり、本当にいろいろなことを自分たちで考えられる職員が多いです。未経験から始める方や他施設で働いてきた方もいますけど、柔軟な考え方がとても大切なことだと思います。

増田

初めは他の部署のことはわからないことがたくさんあったんですね。だから交換留学じゃないけど、他の部署に1人ずつ研修に行く仕組みがあって私も行きました。そういった経験を通して、ワーカーとしての姿勢は変わりましたよね。

青木

コミュニケーションや連携がうまくとれていて、とても働きやすいです。中途採用で経験が足りないのので、学ぶ姿勢は忘れたくないです。

米山

時代の変化もあり、以前とは違う世の中になりましたよね。今まで培ってきた法人の大切な軸の部分は残しつつ、変化に対応できる柔軟な心を持って、次の世代を担う職員さんたちにバトンタッチできたら最高に嬉しいです。

石井

これからもまっすぐ歩いていきましょう！



座談会参加者(左から)本部事務局次長・石井 浩／事務主任・米山圭子／管理栄養士・重田有香
特養介護主任・増田孝志／通所管理者・小永井 謙／軽費介護職員・青木美生子

座談会 仲間と語る 東八幡 今と未来



座談会参加者(左から) 河原崎俊也 3Aユニットリーダー 3階介護主任／西田春嘉 3C介護職員／菊田 涼 1B介護職員
武井雄太 3B介護職員／高橋勇樹 1Aユニットリーダー 1階介護主任／遠藤麻実 2Dユニットリーダー 2階介護主任

仕事をする上での価値観や大切にしていることは何ですか？

河原崎

入居様がどれだけ笑ってくれるか？夜寝るときに「今日も楽しかった」「明日も楽しみだな」って感じてお休みいただけるようにしたいです。入居者様の代弁者として最後の一日まで色々なサービスを提供したいなと思ってます。

武井

施設の生活は割とタイムスケジュールが決まっている中で、ご入居者様にそれを感じさせないように心掛けています。たまには歌を歌ったり踊ってみたりします（笑）うまくいかないときもありますが…ただ単に仕事上の付き合いだけじゃない、第2の大きな家族みたいな感じが出ればいいかなと思っています。

高橋

やっぱりご入居者様への愛ですね。その上で信頼関係を大事にしています。自分だったら自由に過ごしたいと思うので、ご入居者様にできる限り自由に過ごしてほしい、そして自分も楽しく過ごすという気持ちを大切にしています。

遠藤

ご入居者様が一日一回は笑顔になれるように、安心できるような関わりを持つように心がけています。誰かの大切な人の人生に携わらせてもらっているところを絶対に忘れず、寄り添う支援を心がけるようにしています。

歴史ある本部の施設と、まだ新しい東八幡の文化の違い。開設から7年経ち、独自の文化が育ってきていると感じます。東八幡のいいところは？

遠藤

上司がフランクでなんでも話せるような関係でいてくれるところ。トップダウンはあまりなくて、自分たちで考えてそれを上にあげてどうなるかをしっかり考えさせて貰える。そこがとてもいいですし、ユニットリーダーの関係性がとてもいいと思います。

高橋

まだまだ伸びしろがたくさんある施設だと思います。それをみんなまで自覚して、ここを伸ばしていこうという姿勢があるのがいいと思います。

武井

仲間を大事にしてくれる人が多いことです。自分から発信していかなきゃいけないんですけど、それをしっかり受け止めて一緒に解決してくれる人がとても多いのいいところだと思います。

菊田

他部署との関係が良好で連携もしっかりしている印象があります。主任はもちろん、課長や施設長も話しやすい関係で、助けを求めたら応えてくれる。委員会も職員が主体的に発信するところなど、周りのサポートもあるし成長できる機会だと感じます。

西田

私はまだ社会人4年目でわからないことが多いけど、悩みを聞いてくれる同僚や上司の存在があるし、自分が何か正さなくてはいけないことをしたときにこの先どうやって働いていったらいいのか？色々助言をもらって、自分は何のために働いているのかを再確認できる、そういう方たちの存在はとても大きいです。

河原崎

自分たちのユニットから発信をすれば、「やってみようよ」と反応してくれる組織であるのがとても良いと思います。「そんなの無理だよ」とは言われません。

人づくり、成長につながる取り組みが進む中で、今年始まったMJ（みらい：人財）研修について教えてください

遠藤

この企画を持ってきたのは河原崎さんで、ぜひやりたいと思いました。同じ考えの人を増やしてより良い施設にしていこうよという研修で、まだ2回目ですが、みんなの姿勢がとても前向きで、自分の中に落とし込んでいるなという印象があります。

河原崎

次の世代っていうのをどうやって育てようか、やっぱりいきなり明日からリーダーだによって言われてもうまくいかない。だから前もってしっかりと価値観とか法人の理念とかそういうものを伝えていこうよというところからですね。今日はちょうど法人の理念やミッション、目指すべきところは何か？がテーマでした。そのためには職員1人ひとりが、人として後ろ指をさされないようなことをやっていけば、ミッションは達成できるという話をみんなでした。



高橋

「思っても言えない」という職員がユニット内に1人でいて、流されちゃうことも。熱量を保つのはなかなか難しい。話し合える仲間や同じ気持ちの人が集まって少しでも楽になれたらいいし、熱量が冷めないうちに引っ張り上げてあげるのも必要だろうと思います。

MJ研修に参加してみようですか？

武井

割と年月が経ってしまっていて6年。もっと上を目指してくださいという話をされてたのですが、正直面倒だなと思ったりしたことあった。やめようと思ったりもしたけど、自分の課題を克服してからにしたほうがいいよ、と言われて自分と向き合わなきゃいけないなと思ったし、こういう機会を頂いて研修に出たことによって自信が持てるようになりました。

菊田

頑張っても空回りしてなかなか結果が結びつかない状態が続いていてモヤモヤする時期があって、この話を頂いて自分が変わるきっかけになればと思いました。他ユニットの人の考えを知る良い機会で、客観的な意見も取り入れられて視野が広がったと感じます。この研修を通して、自分の中の殻を破れたらなあと思います。今回2回目ですが、手応えはあります。得るものは毎回多いと思います。

西田

私は推薦を頂いてこの場にるのがとても光栄なことです。日々与えられた仕事だけでなく、自分から発信しなきゃいけない立場になったときの考え方が備わってなくて。リーダーの考え方を知り参考にできるところと一緒にやってみようと思ったり、私と一緒に悩みがあるんだな…と思ったり、少しでも皆さんと同じところで仕事がしたいなと思わせてくれる研修です。

河原崎

正直教えられることはあまりなくて。それぞれが自分でどう自分を保つか？成長できるか？その素質がある人を選んだつもり。伸びる力をサポートしてあげるのがこの研修の目的だと思います。

東八幡の未来への思い

武井

そうですね。6年ずっと一緒に生活しているという大げさですが、携わせてもらってる。利用者さんと最後まで関わりたいという思いも出てきました。一緒に働いている仲間に対してもそうです。伝えられてないことがあって、それをどう伝えて形にしていくのが今の自分の課題で、そこに向けて成長していきたい、チャンスは無駄にしたいなっていう思いです。

遠藤

オープニングからやってきて、最初かなりくじけたりしているんだけど、リーダーたちの思いが一緒になって良くなっている最中だと思うので、仲間たちと一緒に成長しながら、より良い施設にして行きたいです。職員一人一人が利用者様の心に寄り添えて、暖かい関係ができれば施設全体も絶対に良くなっていくと思う。同じ気持ちで仕事ができる仲間をどんどん増やしていくのは簡単ではないが、増えていけば感染していくと思っているので。

西田

私はコロナ前を知らないで…例えばイベントなど、ご入居様様の日々の楽しみを増やしたいと思います。利用者様からも「今日は何もないね？」「なんか楽しいことないかな？」と言われるんですよ。レクリエーションはやってますが、大きなイベントがあることが、入居様様にとって大きな楽しみになっています。とにかくここで「楽しい」と感じていただきたい。そういうことにこれから率先して携わりたいですね。

河原崎

開設メンバーが第一世代で、今のリーダーたちが第二世代、彼らは第三世代だと思うんですよ。作ってきた風土とか文化みたいなものを彼らが更に新しく変えていったり、本当に自分たちで考えて実行してPDCAを回せるような組織とか、そういう未来にできたらいいなと思ってます。

菊田

自分も5年目ぐらいになるんですけど、仕事をこなしていく中で一日一日が経験になりますし、つまりいたときに自分から声を出すことは大事なんですけど、東八幡はサポート体制があってすごくありがたいなって感じています。助けられて落ち込んだ時に前向きに切り替えて働けてるなって。ここだからやれてるなっていうのがありますね。



満足度ナンバーワンの施設に

高橋

東八幡を満足度ナンバーワンの施設にしたいです。ショートステイの担当をしているんですが、ショートステイでの満足度ご利用者様とご家族両方にあって、ここを最後の場所にしたいと思って本入所につながり、最後の最後にご家族さまも満足していただく。それを繰り返して、誰しもこの辺の人たちはみんな東八幡に入りたいと思ってくれる、そんな場所になってほしい。それを実現できるよう頑張りたいと思います。

軽費老人ホームA型
つちやホーム



一泊バス旅行



地引綱



七夕飾り

柴の木

理事長 水島 豊



昭和49年5月開設。当初は無銭夢中の状況で福祉事業の難かしさをひしひしと感じました。しかし有り難い事に厚生省、神奈川県、厚労省、そして社会事業に携わっておられる先輩の方々の御指導により室外展開に歩む事が出来ました。我はまさに高令化社会、我はこの様な世の中といふと考えます。遂に低令化社会など考えると身の毛がよだちます。しかし今の世の中は、たしかに変わって来ております。日本人として大切な家、家族関係の復讐。これはその当事者でなければわかりませんが非常に難しいものになっております。福祉事業に携わる私共にも責任の一端があるかも知れません。私は与えられた軽費老人ホーム運営という役割を充分果たすべき考えに変わりはありません。運営面に於いても経費の使い方の難かしさ、年々社会の進展に応じ、その方法も適度な技術が必要とならなければなりません。

私は以前から「まっすぐ歩こう」との信念を持って参りました。其の直ぐ歩く難かしさをひしひしと感じております。十年前開所式の時ふれましたが、いかなる社会でも当然の事ですが、これがなかなかそうはいかない様です。福祉事業に携わっている私には、世上の信譽と目や心にとどめております。

ところで数年前、高道の拡張工事の為、樹齢百年以上の栗の大木が伐採されその根は掘り出され捨てられる事になりました。八月半ば頃でした。その後四ヶ月も前の中に設置されていた物を思い、二月大きな根幹を石の代りにホームの前に置つけました。開所を過ぎ萬の萬五、開所記念日当日。芽を吹き始め夏は、年中緑の葉も深々と天に向って命をつなぎ、更に真っ直ぐ歩めと私に人生の道を教えてくれる様に思えてならない今日この頃であります。

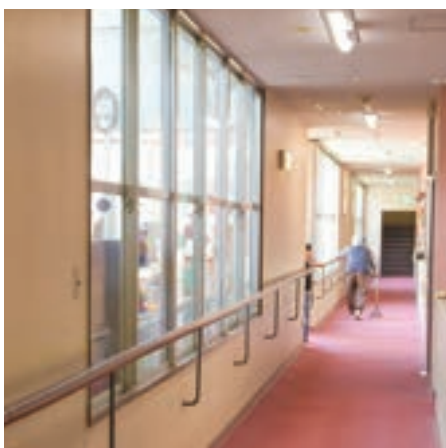
初代理事長水島豊による開設10周年記念誌寄稿文



つちやホーム 施設長 谷 章子

昭和49年4月、つちやホーム開所。まだ幼かった私は、幼稚園の帰り、ホームの前でバスを降りてご利用者に子守をしてもらいながら親の仕事が終わるのを待つ毎日でした。当時のご利用者の皆さんはお元気で優しく、おやつをくれたり、一緒にテレビを見たりと孫のようにかわいがってくれた、とても温かな記憶で、いつか恩返しがしたいなという思いが自分のこの仕事の原点です。

50年の間に社会情勢もホームも大きな変化を遂げました。それでも、緑豊かな環境、ぬくもりの空間、季節の行事やクラブ活動、手作りの家庭料理、そしてご利用者と職員の笑顔…つちやホームの文化として変わることなく今もあり続けています。ホームを必要としている方々が安心できる自分の居場所として、守るべき伝統と時代の流れに合わせて変わっていくつちやホームを、これからもどうぞよろしくお願いいたします。



特別養護老人ホーム
ローズヒル



ローズヒル 施設長 若柳 慎司

ローズヒルは、2023年に施設サービス課と在宅サービス課に組織を再編成いたしました。施設サービス課は、特別養護老人ホームローズヒルとして1992年2月に開設し、現在では入所56名・短期入所16名の計72名定員の従来型となります。当時としては珍しい重度認知症患者の受け入れの施設としてスタートしました。

2020年からは外国人技能実習生の受け入れを開始しました。法人設立50周年の年で32年目を迎えますが、常に新しいことに挑戦し続けています。在宅サービス課は、ローズヒルケアセンターとして通所介護事業所（デイサービス定員29名）と居宅介護支援事業所、また地域包括支援センターひらつかにしの3つの部門により、ご高齢者の在宅での暮らしをサポートしています。

「まっすぐ歩こう」の経営理念のもと、「顧客満足度」を最優先に、お客様に選んでいただける施設、地域で必要とされる施設を目指してまいります。皆様からのご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願いいたします。



ごろ&もー

ローズヒルケアセンター 通所介護

自然豊かで季節の変化を感じられる環境の中で、ゆっくりとご本人のペースで過ごして頂けるデイサービスです。中庭では花や野菜、綿花を育てる園芸も楽しんでいます。「運動したい」「のんびりしたい」「同年代の人とおしゃべりしたい」など、やりたいことは一人一人違います。そんな一人一人の「やりたい！」を叶えられるデイサービスです！



ローズヒルケアセンター 居宅介護支援

ケアマネジャーは、ご利用者の介護サービス計画書（ケアプラン）を作成する専門職です。ご利用者の状況を把握するために面談や情報収集を行い、サービス提供機関とサービス内容を調整して、ケアプランを作成します。また、利用状況を確認するため定期的に利用者との面談を行い、必要に応じてケアプランを修正します。ケアマネジャーは決して楽な仕事ではありませんが、困っている人を助けるなかで、大きなやりがいを感じられる瞬間もたくさんあります。

高齢者よろず相談センターひらつかにし

地域包括支援センター

高齢者が、住み慣れたご自宅で、いつまでも元気で安心して生活できるようにお手伝いさせていただく、地域で一番身近な相談窓口です。保健師・社会福祉士・主任ケアマネジャー、認知症地域支援推進員等の専門職が、幅広いご相談に対応します。担当地区は、金目地区（広川・千須谷・片岡・南金目・北金目・真田）と土沢地区（土屋・上吉沢・下吉沢・めぐみが丘）になります。



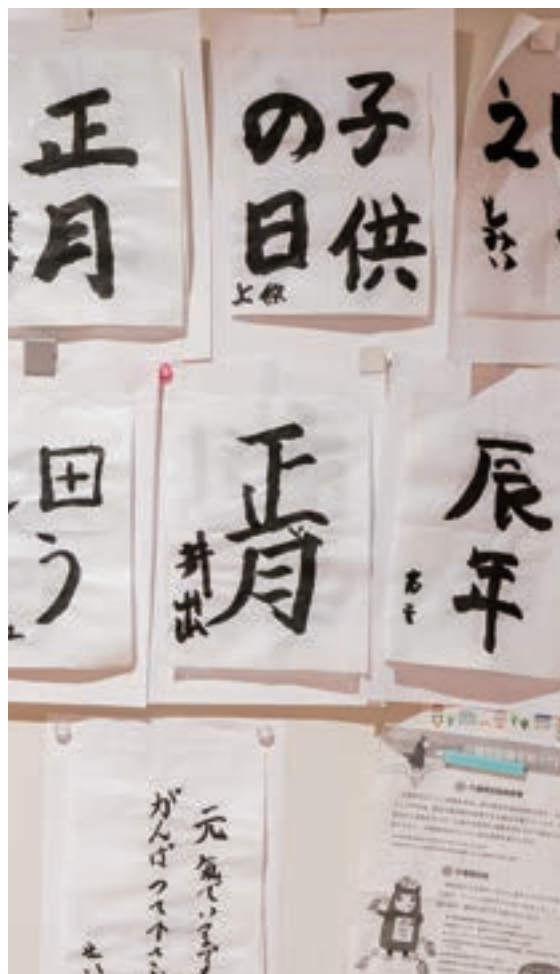


ローズヒル東八幡 施設長 野中 孝子

法人創立50周年、このような記念すべき節目に立ち会えたことを大変嬉しく思っております。2017年10月1日ローズヒル東八幡が新規開設され、今年で7年を迎えることができました。

「まっすぐ歩こう」の基本理念のもとに、地域で暮らすご高齢者やご家族様のそれぞれの人生をお支えできるよう心のこもったサービスの提供に取り組んでまいりました。これからもその理念を守りながら最善のサービスは何かを追求し、社会に貢献できるよう努めて参ります。今後とも皆様方のご支援、ご鞭撻をお願い申し上げます。

特別養護老人ホーム
ローズヒル東八幡



SDGsの取り組み



全ての人が安心して生活できる 地域のセーフティネットとして

- かながわライフサポート事業に参加
- 幅広いサービスの展開によりワンストップで提供



質の高い教育をみんなに

- 次世代を担う人材養成のため、学生の実習や職業体験等の受け入れ
- 施設内で介護実務者研修を実施
- 職員の資格取得費用の支援制度



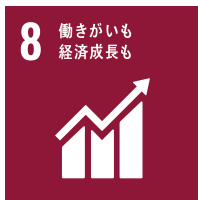
ジェンダーを超えて誰もが活躍できる職場です

- リーダー職・管理職に占める女性の割合58.3%
- 復帰後の短時間勤務を含む産休育休介護休業に対応する制度完備



エネルギーをみんなにそしてクリーンに

- LED照明や節水バルブを完備
- 電力使用の目標値を設定するデマンドシステムの導入による使用電力量の削減



ワークライフバランスを大切に ダイバーシティにも積極的に取り組みます

- ライフステージに合わせた柔軟な働き方を設計(育児介護休業制度、短時間正社員制度等)
- 年間休日平均120日・有休取得率72.7%以上・障害者雇用率6.39%・65歳以上雇用率12.8%
- 外国人スタッフも活躍！無理なく、そのひとの持つ力を生かして活躍できる、そんな職場です



「地域における公益的な取り組み」を推進！

- 地域サロン・認知症カフェ・認知症サポーター養成・問題解決サポート
- 困難ケースなどの緊急時の対応や受け入れ
- 自治会と協力して、買い物、受診など外出にお困りの方の交通手段を確保するため、福祉車両を無償貸与



気候変動に具体的な対策を

- 災害発生時にも施設運営を継続するためのBCP策定と訓練・非常用設備や備蓄



すべての人の尊厳を尊重します

- 虐待防止、身体拘束廃止への取り組み推進
- ハラスメント相談窓口を法人内に設置



社会福祉法人の機能をフル活用して、全ての人が地域で 安心して生活できるように全力でサポート！

- 法人が展開する全ての事業を通じて、地域の方や自治体、事業所、ボランティアさんなど様々な方と手を取り合って、「地域共生社会」の実現を目指し取り組みを継続します

令和 5 年度 | 決算・事業報告

■ 財産目録

令和6年3月31日現在 (単位:円)

勘定科目	金額
I 流動資産	421,235,683
II 固定資産	1,785,489,535
基本財産	1,583,411,014
その他の固定資産	202,078,521
資産合計	2,206,725,218
III 流動負債	153,895,939
IV 固定負債	968,982,321
負債合計	1,122,878,260
差引純資産	1,083,846,958

■ 事業活動計算書

令和6年3月31日現在 (単位:円)

勘定科目	金額	勘定科目	金額
サービス活動収益	1,076,988,851	特別増減差額	188,559
サービス活動費用	1,089,771,996	当期活動増減差額	-12,839,262
サービス活動増減差額	-12,783,145	前期繰越活動増減差額	-78,976,511
サービス活動外収益	7,666,991	当期末繰越活動増減差額	-91,815,773
サービス活動外費用	7,911,667	基本金取崩額	0
サービス活動外増減差額	-244,676	その他の積立金取崩額	0
経常増減差額	-13,027,821	その他の積立金積立額	0
特別収益	24,417,908		
特別費用	24,229,349	次期繰越活動増減差額	-91,815,773

■ 貸借対照表

令和6年3月31日現在 (単位:円)

資産の部	
勘定科目	当年度末
流動資産	421,235,683
現金預金	220,181,927
事業未収金	153,269,418
未収金	4,480,637
未収補助金	28,232,000
立替金	450,461
前払金	825,000
前払費用	2,960,055
仮払金	10,836,185
固定資産	1,785,489,535
基本財産	1,583,411,014
その他の固定資産	202,078,521
資産の部合計	2,206,725,218

負債の部	
勘定科目	当年度末
流動負債	153,895,939
短期運営資金借入金	50,000,000
事業未払金	36,721,217
その他の未払金	4,779,640
1年以内返済予定設備資金借入金	44,479,571
1年以内返済予定長期運営資金借入金	4,296,000
1年以内支払予定長期未払金	644,400
預り金	8,881
職員預り金	8,677,475
仮受金	4,288,755
固定負債	968,982,321
負債の部合計	1,122,878,260
純資産の部	
基本金	740,003,825
国庫補助金等特別積立金	405,658,906
その他の積立金	30,000,000
次期繰越活動増減差額	-91,815,773
純資産の部合計	1,083,846,958
負債及び純資産の部合計	2,206,725,218

利用者数・利用者の状況

令和6年3月31日現在

事業所名	ローズヒル		ローズヒル東八幡	つちやホーム	ローズヒルケアセンター	
サービス種別	介護老人福祉施設	短期入所	介護老人福祉施設	軽費老人ホーム	通所介護	居宅介護支援
在籍者数 (人)	58	—	95	48	37	54
年間延利用者数 (人)	20,095	3,980	34,389	—	6,502	861
月平均利用者数 (人)	1,674	331	2,865	49.0	542	71
年間稼働率 (%)	98.0	67.9	97.9	98.0	87.2	91.9
平均介護度	3.8	2.7	3.6	0.4	1.8	2.2
平均年齢 (歳)	87.3	—	88.4	83.0	87.9	86.3

地域包括支援センターの活動状況

(高齢者よろず相談センターひらつかにし)

令和6年3月31日現在

主な活動内容 (抜粋)	年間	月平均
介護予防ケアプラン作成	1,741	145
地域ケア会議開催	8	0.6
地域主催会議への参加	13	1.0
地域組織支援	131	10.9
認知症サポーター養成講座開催	5	0.4
認知症サポーター交流会・認知症上級者研修	0	0.0
ケースカンファレンス	243	20.2
他機関とのネットワーク会議	3	0.2

第50回ばらの丘文化祭
Web開催中!

ご利用者の作品や豊かな日常風景の他に
50周年記念式典の様子もご紹介していま
す。QRコードからぜひご覧ください。



永年勤続表彰受賞者

勤続年数	常勤	非常勤	計
20年以上	7	2	9
15～19年	4	3	7
10～14年	6	3	9
5～9年	29	21	50
計	46	29	75

入所待機者の状況

令和6年3月31日現在

事業所名	ローズヒル	ローズヒル東八幡
サービス種別	介護老人福祉施設	介護老人福祉施設
待機者数 (人)	85	58
平均介護度	3.6	3.5

編集後記 50年の歴史を振り返り、記念誌として纏める作業は想像以上に大変でした。自然豊かな平塚のこの地に高齢者施設を設立した理事長夫妻の苦労と思いを、また現在の施設の様子を次の世代に伝えることができればという思いのもと編集を進めてまいりました。記念誌発行に際し、ご祝辞をお寄せいただいた関係各位の皆さま、ご利用者・ご家族、日々の業務に尽力してくれるスタッフをはじめ、温かいご支援をいただいている関係者の皆様に心より感謝申し上げます。これからの未来に向けて、私たちはさらに多くの方々に寄り添い、支援を続けてまいります。新たな挑戦にも力強く進んでまいりますので、引き続きご支援・ご協力をいただければ幸いです。最後になりましたが、無理な日程調整や複雑な原稿を整え、素晴らしい記念誌として纏めてくださったeclipsodesign 石川様に深く感謝いたします。 50周年記念誌製作委員会／谷 章子・石井 浩・米山 圭子



第 31 号 令和 7 年 2 月 15 日発行

〒259-1205 平塚市土屋 2196 番地 1 社会福祉法人つちや社会福祉会 理事長 水島 圭一

■編集 50 周年記念誌製作委員会 ■電話 0463(58)6677 FAX 0463(58)0429 ■URL <https://rosehill.or.jp>